

## いじめの日常的な実態把握のために

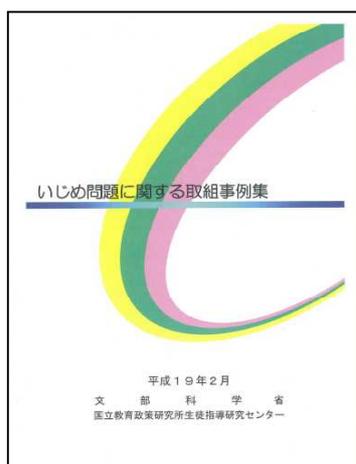
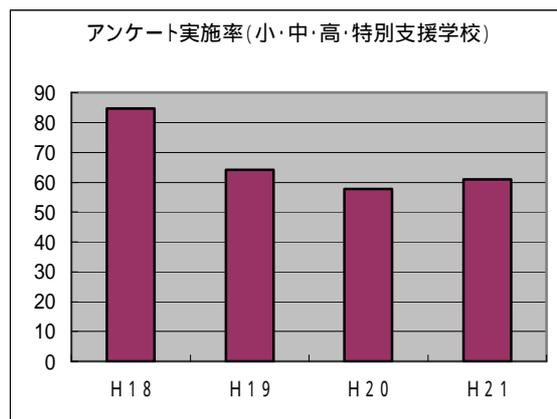
平成 21 年度の問題行動等調査の「いじめの日常的な実態把握の取組」では、いじめを認知した学校と認知していない学校との間で取組の差が見られます。いじめ問題への対応の基本である早期発見・早期対応の前提条件となるいじめの実態把握については、各学校では、いじめはどの学校でもどの子どもでも起こり得るものであることを再度認識し、定期的に児童生徒から直接状況を聞く機会を確実に設ける必要があります。

### いじめを認知した学校

	小学校	中学校	高校	特別支援
アンケートの実施率	81.8%	86.5%	73.3%	33.3%
個人面談の実施率	75.8%	96.2%	90.0%	66.7%

### いじめを認知していない学校

	小学校	中学校	高校	特別支援
アンケートの実施率	61.0%	57.1%	23.1%	18.2%
個人面接の実施率	69.8%	88.6%	59.6%	63.6%



文部科学省・国立教育政策研究所(平成 19 年 2 月)作成の「いじめ問題に関する取組事例集」には、いじめの早期発見に向けた児童生徒・保護者へのアンケート調査の工夫など具体的な資料が掲載されています。HP からも見る事ができます。

### いじめの早期発見と早期対応

いじめの問題を解決するためには、いじめの兆候にいち早く気づき早期に対応することが最大のポイントです。そのためには、いじめに関するアンケート調査や個別面談を学期毎に実施し、実態を把握することが大切です。

教室でアンケート用紙に記入する場合は、ペンを走らせることによって、誰が詳しく書いているかが周囲に分かってしまいます。そこで、いじめられている内容が具体的かつ簡単に答えられるような内容を工夫し、子どもの安心感を保証することが大切です。

また、秘密を厳守するために、家庭に持ち帰ってアンケートに答える方法があります。保護者は「わが子がいじめられていないだろうか。いじめる側になっていないだろうか。」と不安になっている可能性があります。親子でアンケートに答えることで、保護者と子どもの対話の機会を保証することにもつながります。

誰もがリレーションのある人に助けを求めます。個別面談を通して子どもの声が教員に届くように、日頃から温かいコミュニケーションを積み重ね、リレーションづくりをしておくことが大切です。このことが、子どもが発する小さなサインを見逃さないことにもつながります。

(総合教育センター研修指導主事 古川制子)

いじめ問題に関する取組事例集(文部科学省・国立政策研究所)

<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/ijime-07/index00.htm>

いじめ問題への初期対応マニュアル(岩手県立総合教育センター)

<http://www1.iwate-ed.jp/tantou/soudan/ijimemanyuaru.pdf>

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。

岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pn=86&pn=1779&pn=1813>